

高速鉄道セミナー「世界の高速鉄道の今と将来」

2018年11月6日

岡西国際統括官 ご挨拶

本日は多くの出席者を得て、一般財団法人運輸総合研究所主催「高速鉄道セミナー」が盛大に開催されること、心からお慶び申し上げます。また、この場を借りて、先日発生した台湾での列車脱線事故に対し、心よりお見舞い申し上げます。事故の報に接し、私自身、鉄道行政に携わる者として、安全に対する不断の取組みを進めなければならないとの決意を新たにしました次第である。

さて、本日のフォーラムでは、『世界の高速鉄道の今と将来』というテーマの下、イギリス、インド、台湾、日本の各代表からご講演いただくと伺っている。日本の鉄道分野においては非常に馴染みのある国・地域からのご講演であり、大変期待している。

日本の鉄道の父、井上勝はイギリスで鉄道技術を学んだ。そして「日本に近代的な鉄道網を作る」という大きな志を立て、1868年にイギリスから帰国して鉄道の必要性を説き、わずか5年で新橋・横浜間の鉄道の開業を実現した。それから約100年の時を経た1964年、世界に先駆けて東海道新幹線が開業しており、我が国の鉄道はイギリスの鉄道技術を基に築き上げられた。

東海道新幹線の開業から半世紀、新幹線は北海道から鹿児島まで全国に3千キロの路線、年間4億人近くを輸送しながら乗客の死亡事故はゼロ、最短3分間隔の運行での定時性確保など、さらに高度な運行システムへと発展・進化を遂げている。

この世界に誇る新幹線技術が海外に最初に輸出された先が台湾で

ある。当時、受注獲得に向けて楽観視できる状況ではなかったが、1999年に発生した台湾大地震を契機に、地震対策の重要性が見直され、日本連合の受注獲得へとつながった。台湾高速鉄道は、2007年の開業以来、台湾での基幹的な輸送機関として台湾の経済・社会に寄与してきた。

また、新幹線技術を用いたプロジェクトが現在進行中であるのがインドである。日本の新幹線の安全性、信頼性、効率性などが評価されるとともに、2008年の円借款によるデリーメトロ整備の成功を受けて、日本が受注を獲得した。そして昨年9月、モディ首相と安倍総理の出席の下、華やかに起工式典が開催され、また、先月末には東京で日印首脳会談が開催され、新たな円借款の供与が合意されるなど、事業の着実な進展が首脳間で確認されている。日本、そして台湾において基幹的な輸送機関として経済・社会活動を牽引してきた新幹線は、インドの経済・社会の発展にも大きな役割を果たすこととなる。

そして、今、次世代の超高速鉄道「超電導リニア」の建設が進んでいる。2027年には、21世紀の高速鉄道に革新をもたらす「超電導リニア」が、世界で初めて日本の大地を駆け抜けることが期待されている。

本日は、『世界の高速鉄道の今と将来』を俯瞰するにふさわしい方々にご講演いただくこととなっている。本日の議論を通じ、世界の高速鉄道の更なる発展につながる有意義な議論が行われることを心からご期待申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

(以上)